

難民問題に関する国際連携教育事業 公開シンポジウム

国際移住機関の活動とSDGs 移民・難民問題に対する取り組みを通して

多文化公共圏センターでは難民問題に関する国際連携教育事業を立ち上げ、学生が中心となって国内外の様々な難民問題を学ぶことができました。本公開シンポジウムでは、基調講演に国際移住機関から駐日代表にお越しいただき、移民難民問題に対する最新の取り組みについて、SDGsの視点からご講演いただくとともに、学生からはこれまでの成果報告がございます。一般の皆様のご参加も歓迎いたします。

基調講演

講師：佐藤 美央 国際移住機関（IOM）駐日代表



1992年国際基督教大学教養学部人文科学科（当時）卒業、1997年国際基督教大学大学院行政学研究科（当時）博士前期課程修了。在籍中に外務省の専門調査員として在ロス・アンジェルス総領事館に2年間赴任。1997年より、公益財団法人 日本国際問題研究所研究助手、2001年より国際移住機関（IOM: International Organization for Migration）に勤務。JPOとして、ケニア、ベルギー、その後、インドネシア、イラク（ヨルダン駐在）、アフガニスタンで勤務し、2016年10月からIOM駐日事務所代表に就く。また、ジャパン・プラットフォーム事務局（2005年）、内閣府国際平和協力本部事務局（国際平和協力研究員、2011-12年）にも勤務。

日時：2019年12月21日（土曜）

時間：13:00-15:00

場所：宇都宮大学峰キャンパス
5号館B12教室

一般の方も参加申し込みは不要です。駐車場をご利用いただけます。お気軽にお越しください！

学生による研究報告

報告者：藤崎由佳(B3)
テーマ

「難民の社会統合
ー日本における受容の二面性ー」

ポスター発表

報告者①：青野ななこ(B1)影山実悠(B1)小名木彩花(B1)榊原彩加(B2)

テーマ：「日本における第三定住難民支援」

報告者②：鈴木ひとみ(B1)村越紀香(B1)アティラ・ナシル(B2)今井一樹(B2)

テーマ：「生体認証機能を用いた難民支援」

報告者③：秋村康平(B3)

テーマ：「ウガンダにおける難民政策の再検討ー難民を取り巻く社会構造とバンジュール憲章における自決権からの考察」

問い合わせ先：国際学部教員・藤井広重(fujiih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

主催：難民問題に関する国際連携教育事業 学生実行委員会
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター